

第 30 回 かの・環境を考える委員会

概要

- ・日時：2011 年 12 月 19 日（月）18:30～21:30
- ・場所：交野市役所 別館 3 階中会議室
- ・テーマ：計画の目標設定、計画案の修正



進行・内容

18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。

18:35 全体ガイダンスと本日の議題確認、ロードマップの確認をおこなった。

18:40 推進の考え方や推進体制（パートナーシップによる推進組織、庁内推進体制）について環境保全課長より説明があった。

パブリックコメントにかけするため、内容を確認して意見があれば年内に環境保全課に伝える。

18:45 計画の指標と目標の設定について環境保全課より説明があった。

・前回の委員会時に出された意見を含めて改訂をした。環境基本計画書以外の個別の計画書と整合性を持った目標値とするため、個別の計画が見直された場合は、環境基本計画書も適宜修正を入れる。

指標 1. 緑地面積

- ・緑地面積に加え、里山保全活動用地面積を追加した。市で把握している範囲の広さを基準とした。交野市緑の基本計画を参照している。

指標 2. 二酸化炭素排出量

- ・国と府の目標に準拠する。平成 2 年度における市の二酸化炭素排出量の数値を追加する。

指標 3. ゴミ処理・再生利用率

- ・ゴミ処理量は、家庭系、事業系、再生利用率に分けている。

指標 4. 河川水質

- ・化学的指標と、生物指標を追加した。化学的指標は、「市内の主要河川について天野川の環境保全目標値（BOD が 3mg/ ）相当にします。」とした。大阪府 21 世紀の新環境総合計画（平成 23 年）に準拠している。
- ・生物指標は、「きれいな水に生息する生物が確認できる。」とした。冊子「川の生きものを調べよう（平成 12 年間環境省・国土交通省編）」に記載されている指標生物を例としてあげている。

指標 5. 観光客数

- ・目標は、「交野に訪れる 1 年間の観光客数を 100 万人にします。（平成 22 年実績 70 万人 大阪府観光統計調査）」とした。

指標 6. 交通機関利用者数

- ・目標は、「主要駅（京阪：交野市駅、JR：星田駅、河内磐船駅）でのバスの利用者数を現状

(2011年)よりも増やします。」とした。

現在、京阪バス(株)調べの平成22年度実績人数を問い合わせている。

(出された意見は以下のとおり)

緑地面積について

Q1. 緑地面積の割合を上げる方策はあるのか?

A1. 緑の基本計画に施策が載っているので関連させた。

二酸化炭素排出量について

Q1. 二酸化炭素排出量の算出の仕方は、平成2年度と平成23年度では同じか?

A1. 平成2年度の算出方法は、全国的なマニュアルに基づいている。直近のデータもそれに基づいて出したい。排出量に関しては人口が増えているので上がっている。目標としては指定するが、評価するときは人口の比率で出そうと思う。

河川水質について

Q1. 河川水質の化学的目標について、3mg/相当の相当とはどういう意味か?

A1. 実際、3mg/は厳しいので幅をもたせた。

Q2. 「化学的目標」を「数値目標」に改めて、数値目標と生物指標にしてはどうか?

A2. 生物に対して化学的に分析しているので、化学的目標としたが、数値目標に変更する。生物指標は指標とせずに参考程度にとどめる。

結論) 指標、目標の最終調整は保全課が行う。

観光客数について

Q1. 観光客数の平成22年度の実績70万人は、どこに観光に来ていることを指すのか?

A1. ぶどう狩りや植物園などを訪れている観光客を合計した延べ人数だ。

Q2. 観光客数を指標としたとき、環境に配慮しながら行う観光であれば指標になるが、そうでない場合は環境基本計画の指標になるのか? また、現状より観光客を30万人増やすことは、交野にとって負荷がかからない範囲なのか考える必要がある。例えば、交野で作られた野菜や果物などの農産物を観光客向けに販売し、その売り上げ増えたというのは指標にならないか?

A2. 観光客数については、関連するプロジェクトのなかで、「賑わい」が目標にあがっていたので、目標と指標に加えたが、環境の視点を入れていなかったので修正する。

改訂箇所: 「・・・相当にします」を「相当とします」に改訂する。

結論) 指標、目標の最終調整は保全課が行う。

交通機関利用者数

Q1. 人口が増えればバスの利用者数が増えることもあるので、指標にできるのか?

A1. 交通利用調査をして世帯ごとに算出することはできるかもしれない。

Q2. バイクや自転車の現在の保有台数をデータとして出してはどうか?

A2. 自転車は保有台数が拾えない。また、人口変化に連動して変わることもある。自転車保有台数が環境負荷を算出する指標になるのかは不明だ。



Q3 . レンタサイクルの利用を指標にしてはどうか？また、駐輪場の利用者数を加えてはどうか？

A3. 交野ではレンタサイクルの場所は一部しかない。駐輪場は現在、満杯状態だ。

Q4. 高齢化が進めば出勤で交通機関を利用する人が減少するので、全体の人口は変わらなくても、交通機関利用者数は減少すると思う。

A4. 交通利用者数は、人口分の乗降客数で割合を出せば、一定の指標になると思う。

Q5. ゆうゆうバスの利用者数ではかるのはどうか？

A5. ゆうゆうバスは福祉的観点から捉えているので指標にするのは難しい。

意見：これからの社会を考えたときに、交通は環境のまちづくりという観点から大きな指標だと思う。指標として何を基準にするのかについては議論が必要だが、割合で出すのもひとつの手だ。他の市では補助金でMM(モビリティ・マネジメント)が取り組まれている例もある。交野では、これからのプロジェクトのなかで交通調査について検討されていくので、それを基準にして割合を出していくという方法も考えられると思う。

19:35 総合ビジョンについて、現在出している案で完成とするかについて確認をした。

異論はなく、総合ビジョン案として計画書への掲載を決定した。

19:40 交野市環境基本計画冊子の構成について目次素案を示し、表紙、挿絵、写真について相談した。

(出された意見は以下のとおり)

- ・ 表紙は発表会の冊子にした越智委員のイラストを使用するのはどうか？
- ・ 交野の風景写真はあるが、越智委員が書かれたイラストは、かたのサイズでいいと思う。

(次回委員会での検討事項)

- ・ 表紙のイラストについて、越智委員も含めて相談する。
- ・ 挿絵を書いてくださる方の選出と使える写真の検討。
- ・ 委員会の挨拶の執筆担当を決める。
- ・ 資料編に載せる委員の名簿や一言メッセージ、集合写真について話し合う。

19:50 1月の委員会の予定について以下を確認した。

新しい仲間のオリエンテーションについて

- ・ 1月10日の委員会前、17:30から18:30に実施する。来られる場合は事前に事務局に申し込みをいただく。

先進事例の視察について

- ・ 生駒市の視察を1月26日または27日の午後で調整する(1月に入り日程を確定)。予定していた1月23日の委員会は実施しない。

20:05 グループワーク：プロジェクト等の修正を行った。

21:28 次回の委員会の連絡等、事務連絡を行った。

21:30 終了

グループ議論の詳細

【エネルギーグループ】

1. ビジョン（一行コピー＆説明文）最終案の検討

ビジョンを表現する説明文について、案をもとに検討した。

案1.（かたのサイズをもとに作成）

「太陽、風、水など交野にある自然の恵みを見つけ、磨き、エネルギーとして活かしている。人々の環境意識も高く、地球温暖化に気を配り、環境に配慮したまちが実現している。」

（出された意見は以下のとおり）

- ・ 自然の恵みを「磨き」はイメージができないので、「育み」や「守る」にしてはどうか？
- ・ 「地球温暖化防止に気を配りに」してはどうか？
- ・ 防止のなかには気を配るという意味が入っていると思う。
- ・ 自然の説明になっているが、省エネの説明がないので入れたい。

案2.

「エネルギーの大部分は海外から石油やガスなどで賄っている。限りある資源のエネルギーをかしこく大切に使うまち。そして、交野にも与えられた太陽光など、自然の恵みを活かしたエネルギーを積極的に取り入れるまち。」

（出された意見は以下のとおり）

- ・ 海外からの限りあるエネルギーと、自然エネルギーを対比させた。
- ・ 最初の1文は説明分になっているので、続けた1文にしてはどうか。
- ・ 太陽光だけでなく、水や風も追加したい。

出された意見をもとにビジョン説明分は以下に決定した。

「海外からの輸入に頼る石油やガスなどの限りあるエネルギーはかしこく大切に使い、交野にふりそそぐ太陽の光、流れる水、そよぐ風、それら自然の恵みを活かしたいつまでも続くエネルギーを積極的に取り入れるまち。」

2. 中間発表会を受けてプロジェクト修正

そらいけソーラーパネルプロジェクトの改訂箇所

- ・ 第3段階の1)「電気の共同購入」 「太陽光発電機の共同購入」に改訂。
- ・ 第3段階の2)「初期投資をおこなわずに」 「最小限の負担で」に改訂。
「太陽光発電」 「太陽光発電システム」に改訂。「計画」 「手法」に改訂。

星のまち エコドライブの改訂箇所

- ・ 目的のところ、「・・・エコドライブが当たり前のまちにする」 「・・・地球温暖化防止に



貢献する」に改定。

- ・ その他考えられる取組の1つめ、「エコドライブ実践者をガソリン家計簿の記録から実践データを集め、パンフレッドなどに活用する」「エコドライブ実践者のデータを集め、普及活動などに活用する」に改訂。変更した文を第2段階に移動し、(3)として記載。
- ・ 新しく、[第3段階]発展 を追加。
- ・ その他考えられる取組の二つ目を第3段階の1)とする。
- ・ 第3段階の2)として「自動車の利用を控え、買い替え時には燃費性能の高い自動車を選択する人を増やす」を新しく追加。
- ・ 評価の基準は、改訂版を出す。

風を活かしたまちづくりの改訂箇所

- ・ 「かたのサイズをめざす像」に、かたのサイズ9「五感を大切に、情緒豊かな時間を味わっている。」を追加。
- ・ 第3段階の1)「里山整備活動で出た材や、使用されなくなったイス、廃材、再生材を使ったイスなどを活用して」「里山整備活動で出た材や、廃材、再生材や使用されなくなったイスなどを活用して」に改定。
- ・ [その他考えられる取組]の1)と4)を第3段階に移動し、2)3)とする。3)は、「涼み処」の後に、「涼み処(陽だまり処)」と追加。
- ・ [その他考えられる取組]の3)は削除。
- ・ [第1段階]普及啓発「第1段階」準備・情報収集 に改訂。
- ・ [第2段階][第2段階]普及啓発 に改訂。
- ・ [第3段階][第3段階]連携事業 に改訂。
- ・ [第2段階]の1)「木を植えるなどで」「木を植えるなど」に改訂。
- ・ (陽だまり処)を、第1段階の2)「涼み処の募集・・・」の涼み処の後に追加。

3. 確認事項と次回に向けて

- ・ 計画書に掲載する表現を確認した。
- 「エネルギーグループビジョンなど」「エネルギー分野ビジョンなど」に改訂。
- ・ 挿絵はフリー素材のものを使っているので、計画書にのせる絵や写真など使用できるものがあれば出す。

【エコ生活グループ】

1. プロジェクトの修正

- (1) 『生ごみ堆肥を元に農産物販売アップ』
評価の基準を修正



- ・交野市全域での実施に向けて生ごみ堆肥化の試行実施が行われている。
- ・生ごみ堆肥で作った農産物が販売されている。

(2) 『売ってエコ 買ってエコ』

対象

- ・「消費者」を加筆

評価の基準を修正

- ・平成 18 年度を基準に平成 29 年度に家庭系ごみが減少している

(3) 『「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル』

実施主体

- ・計画推進組織の後に「(エコ達人を含む)」を加筆

(4) 『かたのエコ研修センターをつくろう!』

計画の基準の修正

- ・計画期間終了時に、かたのエコ達人の活動の場が見つかっている。
- ・誰もがいつでも環境について学べる場が見つかっている。

(5) 『とかいなかライフプラザ』(編集案 ver.より修正)

目的の修正

- ・生ごみ堆肥を活用して、儲かる農業を実現し、雇用確保と所得向上を目指す

実施主体

- ・「健康増進課」を削除

対象

- ・定年退職者・退職予定者、市民(順番を入れ替える)
- ・「農業に関心のある人」を削除

活動内容

【第 2 段階】

- ・1)「・・・を元に、・・・」 「・・・を基に、・・・」

【第 3 段階】

- ・2) を下記のとおり加筆、従来の 2) は 3) とする。
- ・2) 生ごみ堆肥を活用した新商品を開発するための技術研修や、他の関係者との交流会などの情報提供を行う。

評価の基準

- ・計画期間終了時に、食と農が循環する活発なコミュニティビジネスが生まれている。

『とかいなかライフプラザ』のコンセプト

「生ごみ堆肥を活用して、儲かる農業を実現し、雇用確保と所得向上を目指す」

- ・従来の手法や思考にとらわれるのではなく、これまでにない生ごみの活用方法や、技術・知識の組み合わせによる新商品開発・生産を模索し、柔軟な発想をもって、積極的に新しい取り組みを行っていくことが必要と考えている。

・取り組むポイント

- 1) 生ごみ堆肥を活用した新商品を開発するための技術研修や他の関係者との交流会などの情報提供を行う。
- 2) 直売施設、農業用機械施設を整備する。
- 3) 高齢者雇用の助成金や農業改良への融資などの資金を確保していく。

・高齢者を対象にする理由

- 1) メーカーや流通販売業で働いていた、外国語ができる、OA 機械に詳しいなど今までやってきた得意分野を活かせる場を作りたい。
(市民の潜在的能力を活かし、雇用を生み出す。)
- 2) お金と時間がある。



【まちづくりグループ】

1. プロジェクトシートの確認と修正

委員会までにコーディネータより送付してあったプロジェクトシートの内容を確認し、更なる修正点と、タイトル、評価の基準について議論した。結果は以下のとおり。

(1) 「農業活性プロジェクト～都会にいても農業ができる～」について

- ・ タイトルを「とかいなかで農業を！」に改める。
- ・ <問題>の観光資源の内容について(農地、山林、景観、歴史、文化等)と記述。
- ・ <目的>の「観光資源」を「農地、景観、農文化等」と改める。
- ・ <活動の主体>の最後に「など・等」を付けるかどうかは、全体の編集方針に従う。

(2) 「自然満喫エコツアー」について

- ・ タイトルを「かたの満喫エコツアー」に改める。
- ・ <目的>の「インタープリター」に脚注を付ける。 全体編集方針に加える。
- ・ <活動の主体>の「水道局」を抜く。
- ・ <波及的効果>の「水源が保全される」を抜く。
- ・ <内容>第2段階の“(仮)交野もん”のような呼称の表記を全体で統一する。
- ・ <“かたのサイズ”を目指す像>の39と50を抜く。

(3) 「自転車の事故ゼロとマナー向上を目指そう大作戦」について

- ・ タイトルは未定。(案「自転車のマナー向上大作戦」)
- ・ <内容>第3段階の「次プロジェクト」を「自転車の似合うまち・かたの」に改める。

(4) 「交野のまちを自転車が利用しやすい環境に！」について

- ・ タイトルを「自転車の似合うまち・かたの」に改める。
- ・ <内容>第3段階の「プロジェクト3」をタイトルが決まり次第改める。

(5) 「誰もが利用しやすいバス」について

- ・ タイトルを「誰もが利用しやすいバスを走らそう！」に改める。

- ・ <活動の主体>の「商業連合会」を「交野市商業連合会」に改める。
 - ・ <内容>第1段階の「(交通弱者)」を抜く。
 - ・ <内容>第1、第2段階の「かたの交通調査会(仮称)」のような呼称の表記を全体で統一する。
 - ・ <内容>第4段階の「交野市総合計画とともに」を抜く。
- (6)「自然、農業、歴史に触れて、子どもの育てやすい環境を」について
- ・ タイトルを「地域(まち)ぐるみ エコで子育て・親育て」に改める。
 - ・ <活動の主体>の「水道局」を抜く。
 - ・ <内容>第2段階に「と施行」を付け加える。

2. プロジェクトの実施スケジュールについて

コーディネータより実施の考え方(実施時期・順番)について説明した。
 具体的には、各人持ち帰り、アイデアを練ってくることとなった。

<実施の考え方>

最初に取り組むべきものとしては、以下のようなものが望ましい。

- ・「人が集まる」 例 (6)
- ・「取り組みやすい・わかりやすい」 例 (6)
- ・「結果(結実)・目に見える成果がでやすい」 例 (6)
- ・「複雑な調査を要するなど長期にわたるもの」 例 (5)

プロジェクト間の関係性を加味し、順番を考えるとよい。

例 (6) (2) (1)

(3) (4)

(5) など

宿題：

- ・ 全プロジェクトの最終修正は池田が行い、全メンバーに送付する。アイデア・再修正のある人は、12月21日(水)までに全メンバーに返信し、確認を取る。
- ・ 12月22日(木)には、市から、全グループ分を集約したプロジェクトシートが送付されるので、意見のある人は12月27日(火)までに市へ提出する。
- ・ プロジェクトの実施スケジュールについては、各自アイデアを練っておく。

【自然環境保全グループ】

1. プロジェクトの並び順について

里山の3プロジェクト「(その1)里山を知ろう・里山大好きプロジェクト」「(その2)実践！里山保全活動」「(その3)山の持ち主と活動団体の縁結びプロジェクト」の2と3の順序を入れ替えた方が流れはいいのではないかという意見を受けて、議論した。

議論した内容

- ・入れ替えによって、3 のプロジェクトの位置づけが変わる。“お試し”として取り組みを始めるプロジェクトから、本格的な実践活動のプロジェクトへ。
- ・まず自分たちがやってみて実績をつけた状態でなければ、山の持ち主らの信頼を得るのは難しいと思えるので、これまでの順序どおりでよい。
- ・地主さんの協力を得ないと実践活動を広く展開することは難しいから、入れ替えた方がよい。
- ・実際には1のプロジェクトからスタートして第2段階から、2のプロジェクトを並行して始め、同時に3のプロジェクトを始めるといように、三つが絡み合い全体として里山保全のプロジェクトが進んでいくと思われるので、順序にこだわる必要はない。
- ・初めて計画書を読む人が、ストーリーとして読みやすい流れで順序を決めればよい。

結論

当初の順序どおりとする。



2. シートの変更点について報告

リライトによって変わった点が以下のとおり報告された。

- ・それぞれのプロジェクトの第一段階に「1) プロジェクトチームを立ち上げる。」を追加した。
- ・その1, 2, 3のプロジェクトの「課題」の項目を、「市民参加型の楽しい山づくりをすすめる」とした。
- ・「実践！里山保全活動」プロジェクトの第1段階 2) の詳細を「里山保全活動団体のネットワークを活かし、実作業に必要なスキルを学ぶための初級・上級等、教育カリキュラムを作成する。/ 先進事例および既存の講座の実施状況の調査、講師の選定、内容の検討等。」とした。
- ・同プロジェクトの第2段階に 1) 「整備が必要な地域、手法、目標、担当団体などを検討する。」を追加した。
- ・「生きものいっぱい！豊かな川づくり」プロジェクトの第1段階の 2) に「市民の川に対する意識を高めるためのイベントを開催する。」を追加した。
- ・同プロジェクトの第2段階に、「そのイメージの実現のためにできることを検討する。」を追加した。
- ・同プロジェクトの第3段階 1) から「雨水利用を進める」を削除した。
- ・同プロジェクトの第3段階 2) の内容を「多自然型工法に関する専門家へのヒヤリング、先進事例調査、学習会等を踏まえて、実施可能な地域や手法を検討して、実践していく。」とした。

3. シートの表記の修正と追加

すべてのプロジェクトの内容をチェックして、以下のとおり決定した。

「里山を知ろう・里山大好きプロジェクト」

- ・目的欄を「市民、企業、行政の活動を一体化し、交野の里山のファンを増やす。」とする。
- ・第3段階の説明2つ目「生態調査等の既調査分を参考に、里山の状態を再認識する。」は削除

する。

・評価の基準欄は、「計画期間終了時に、イベント・学習会・調査などへの参加者数が累計 5,000 人以上になる。」とする。(数値の根拠は、人口の 5%の 4000 人を切り上げ)

「実践！里山保全活動」

・評価の基準欄は、「計画期間終了時に、里山保全活動への参加者数が累計 5,000 人以上になる。」とする。(数値の根拠は、前プロジェクトと同じ)

「山の持ち主と活動団体の縁結びプロジェクト」

・評価の基準欄は、「計画期間終了時に、協定件数が 10 件以上になる。」とする。

「生きものいっぱい！豊かな川づくり」

・評価の基準欄は、「在来の動植物の種類と生息数が増える」とする。

宿題：もう一度、すべてのプロジェクトを各自でじっくり読み込んでチェックする。

以 上